

が ん ば

島三小育友会報
発行部
報部

〔第68号〕



夏休み町内対抗フットベースボール大会Bパート第一位

チームワークで 優勝よ!

育友会員の皆様におかれましては、日頃より育友会活動に對し、深いご理解をいただき心からご参加頂いており、誠に厚くお礼申し上げます。

さて「巨木の倒れるが如く……」というたとえがありますが、前山会長の急逝は、あまりにも空しく、惜しまれてあまりあるものがあります。二日半の入院で他界されるとは、だれ一人として知るよしもなく、入院先の温泉病院には、寸暇を惜しんで詰めておりながら、「絶対安静が最良の策」とのこと、前山会長が目覚まされることさえ気が使い、お話を伺わなかったことが、今となっては残念に思えてしようがありません。

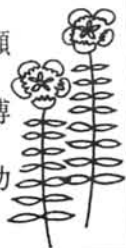
葬儀に際しましては、前山家の深いご理解により、前山家・三小育友会の合同葬を執り行なわして頂きました。八百名に及ぶ多数の方々のご会葬で私共といたしましては、ただただ前会長のご人徳と三小育友会の歴史の重さを思い知らされ、身のひきしまる思いでございます。

私も育友会にとりまして

育友会会長

成瀬博功

ごあいさつ



は、あまりにも大きな星を失いました。しかしながら私共はかつてないこの大事に、いつまでも感傷にひたることなく、現実にたちかえり、育ちゆく三小児童のために、日々ある育友会を継承する義務もまたございます。そうしたことから、先日臨時に開催いただいた代議員会で、会長に私副会長に高原寿一氏を選任いただいたのでございます。残任期間が二学期に及ぶこと、執行体制の責任の所存を明確にする必要があること等による役員選任でございます。

この上は、三小育友会の長い伝統を謹んで肝に銘じながら運営に任じたいと思っております。

育友会はいっつの世も健全な子どもを多くむためのものであると思えます。育友会のその活動をささえる両輪は、すばらしい先生方と父兄の集まりであります。そこには、あくまでも平等な会員があり、平等な義務があると思えます。

三小育友会の長い歴史のページを皆さんと共に創造いたしましょう。



前山前会長

急逝さる



謹しんで、故前山会長の追悼のことは申し上げます。前山前会長は昭和五十三年

ご遺徳を偲んで

副会長 芝田 扶実子

トベースポール大会を開催されました。ライオンズクラブ協賛による立派な優勝旗は会

三小育友会長に就任され、とても温情豊かなお人柄で、すぐれた才覚と実行力をお持ちの方でした。育友会員の皆みな様は心から親しみをもち、ひかれてまいりました。五十四年には市連合PTAの会長として、子どもさん達の健全育成のために市連P女子フットボール大会を開催されたり、熊本の吉田司家に足を運び、方屋作りに一生涯

長の御尽力によるもので、子どもさん達の励みとなっており。また、マラソン大会PTAの研究発表等と幅広く育友会活動に貢献され表彰されました。五十五年一月、三小不慮の火災の時も深夜まで消防の方々への炊き出しをなされた。古い机や椅子等のおわれた箇所を自からカナヅチを持って修理なされ、子どもさんたちは支障なく勉強が出来る。会長は実に細い所まで配慮なされるお方でした。翌五十六年一月十四日には、立派な鉄筋三階建の新校舎が落成記念事業の一環として、祝賀バザーを開催することに決意を燃やされました。この趣旨を育友会はもとより、学校当局、町内会長会、同窓会、白山地区の方々との御協力をいただきまして、盛大なる成果を納めるに至りました。その益金は、数々の会議の結果、土俵建設に生かされることになりました。会長は事を慎重に行なう人でしたので再三にわたり、熊本の吉田司家に足を運び、方屋作りに一生涯

命でした。その結果九州一といわれる程の土俵が完成し、九月五日吉田司家御当主(二十四世追風)をお招きしての方屋開きが古式豊かに執り行われ子どもさん達の初相撲大会を見ることが出来ました。このような育友会に対しての献身的なご功績が認められ、市より教育功労者として表彰を受けられました。三小育友会として誠に名誉なことと喜びばしいかぎりと思っております。あんなに元気だった会長がお倒れになったとお聞きして島原温泉病院にかけつけた時はまだ言葉もはつきり話されておられて一日も早く回復されることを念じていました。突如として逝ってしまった。残された御家族の方々がたのしみは如何ばかりでございましょう。前山家と育友会の合同葬儀には会長の御遺徳を偲んで、八百人余の御会葬者でございました。会長の残して下さった数々の業績を末長く育友会に引きつぎ、発展させていくことを念じつつ、前山会長の御冥福をお祈り致します。

彼岸花によせて

江崎 勝利



前山四郎前会長逝きてひと月を過ぎた先日、所用で車中の人となり、久方ぶりに広々とした田園を見る。黄金の波を間近かにひかえた広い田んぼで、ややつかれかけたカカンさんに「もうすこし元氣ば出さな」と、可憐な深紅の彼岸花がほほえましく話しかけていた。わたしの任務は、今からの学校教育と学校への望ましい協力の在り方にもかかわる問題での出張である。いつものがら、多忙に追いまわされるわたしにとつて、車中での思索は唯一の構想の場であり、思考の時間帯である。その思索の中で、「校長先生、ほんとうにすみません。しかたがないです。あとはよろしくお願いいたします。ほんとうにすみません。」……深紅の彼岸花が車窓のわたしに伝えた言葉である。前会長のにこやかな顔が、そこに在ったことは言うまでもない。自から動かなければ人は動かない。愛が人をささえる基盤ではないでしょうか。探し求め、解けぬ悩みがあっても、共に時間をかけて花を咲かせ

ましよう……。これが、前山前会長が心に秘め、葛藤し続けてきたことではなかったろうかと思う。同じ町内に住み、また、父同志が町内会長と副会長で、一日も交流なしでは過ごすことができなかった間柄だったが、わたしと前会長とも偶然そのような形になり、無言の中にも通じ合う立場になったのもつかの間、具体的な方策や運営について語り合う機会を失ってしまったことが、残念でならない。でも、前会長の超人的な実践の事実は、わたしが島原を離れていたときも耳にしていたし、私は私として公に尽くすという親ゆずりともとれる性格に、礼節・誠実・責任・謙虚のことはそのままをバックとした行動が前会長の人間としての魅力であったのではないでしようか。毒性を持ちながらも、茎は漢方薬用になるといふ彼岸花……。くしくも、黄金の稲穂の波を見守るかのようにつつましやかに可憐な深紅の姿をわたしに見せてくれたことが印象的であった。

ありし日の前山前会長



S 56.2 新校舎落成記念バザー



S 56.5 学級代議員研修会



S 57.7 交通部自転車点検

会長 成瀬 博功氏

副会長 高原 寿一氏



新会長・副会長決定

会長 成瀬 博功 (霊南 二一二四二二)
副会長 高原 寿一 (新山西 三一四五五五)
(兼環境部長)

前山四郎前会長の御逝去にともなう、本会の会長が欠員になっておりました。

育友会会則では、そのような場合のことについて、第七条(役員の仕事)(2)に、「副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその仕事を代行する。」と規定してあります。そのため、前会長御逝去

の日より、成瀬・芝田両副会長がその職務を代行してまいりました。
しかし、現役員の任期がまだ半年以上も残されていることやその期間の多くの行事や職務等をすべて「代行」で執行していくことは、内外ともに支障をきたすことが予想されます。

会則第九条(役員の仕事)には、「……欠員の補充により就任したものは前任者の残任期間とする。」として残任期間に限り役員の補充を認めています。

九月二日の育友会代議員会で会長欠員にもなる補充について協議の結果、会長には副会長の成瀬博功氏が、副会長には環境部長の高原寿一氏が選出されました。環境部長については、年度途中での交替は専門部活動に支障ありというところで、高原氏が引き続き兼務することになりました。ところで、役員選任については、会則第八条(役員を選任)で、「……代議員会で選出する」ことになっていました。

しかし、このことで臨時に総会を開催することは、会員の皆様にとっても大変なことですので、代議員会で協議の結果、文書でお知らせすること、総会の承認にかえるという便法をとらせていただきました。

以上、御了承の上、新役員さんに多大の御協力をたまわれますようお願いいたします。
(育友会事務局)

会長の良き話し相手に

高原 寿一

朝夕は、めっきり秋の気配を感じさせる今日この頃でございますが、皆様方には益々御健勝のことと存じます。

さてこの度、前会長前山氏の急逝に伴い、前副会長の成瀬氏が新会長となられ、その空席となった副会長を私にこのお話がありました。私といえども、全く考えてもみなかった事柄であり、突然のことなので、今までは、唯何となく常任委員会の末席をわがしていた私に、果して動まるのだらうかと、いろいろ思案も致しました。しかし、前会長前山氏御逝去のあと、その御意志を受継いで、育友会活動を進めて行かれる成瀬新会長さんの良き話し相手にでもなればとお引き受けすることに決心致しました。

副会長の責を全う出来るかどうかわかりませんが、皆様方の旧に倍する御協力と御指導、御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。簡単でございますが、一言御挨拶申し上げます。



町内対抗球技大会終る

体育部長 熊本勇治

いただいた常任委員さんをはじめ、町内代議員さん、また、子どもたちを御指導くださった監督さんや御父兄の方々、御苦勞さまでした。

おかげさまで、無事に大会を終了することができました。

〔大会成績〕



去る七月二十六日、子どもクラブ対抗ソフトボール・フットベースボール大会を霊丘公園グラウンドと三小運動場で行ないました。

ちょうど長崎大水害の直後でしたので、開会式では、その犠牲者の冥福を祈って、全員黙禱をいたしました。

大会は子どもたちが、日頃の練習の成果をいかに発揮して熱戦の連続でした。

また、応援も熱が入り、大変な盛り上がりでした。

この大会のために御尽力い



蛭子鼻

◎フットベースボール

- Aパート
 - 一位○新山東
 - 二位○坂上 ○浦田上
- Bパート
 - 一位○南下川尻 ○川尻南
 - 二位○有馬船津

- 敢闘賞○新山西 ○浦田下
- Cパート
 - 一位○霊南 ○白土上下
 - 二位○崩山 ○下川尻

- 敢闘賞○桃山蛭子町
- Dパート
 - 一位○緑町 ○栄町
 - 敢闘賞○津町 ○坂下八幡町



町内だより (二)

新山西 本 多 礼 子

新山西育友会は、新山西二丁目の一部と三丁目、四丁目、緑町の一部で四十八世帯、六十五人の児童で構成されています。比較的、町に近く、父兄の職業も多種多様で、それぞれ環境のちがう家庭の子どもたちがいて、いろいろな面でプラスになっているのではないかと思われまます。

学校から帰っての子どもたちの生活は、五時三十分頃からのソフトボールとフットベースボールが主で、二中のグラウンドを利用しての練習に汗を流しています。練習がない日や、ただ、参加しない子どもたちの生活が心配になるわけですが、その点については、町内会長さんが児童がいる家庭だけの問題とせず、「地域ぐるみで青少年の非行化防止を」と先頭に立って積極的に協力してくださり、班長さん、地域の方々全員の暖かい御配慮のもと、青少年の健全育成に努力しているところ

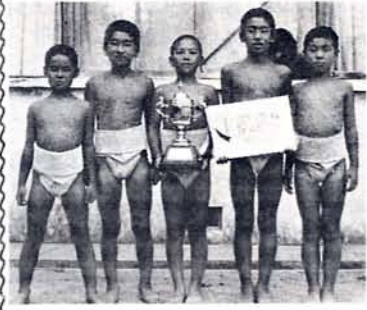
です。

夏休み前には、町内会長さん、班長さん、育友会代議員、指導員と四者の連絡協議会を

もち、学校での協議事項を種々検討し、「小学校児童の夏休み中の生活指導についてのお願い」としてプリントにわしく説明して全世帯に配布していただきました。また、親子の信頼あるふれ合いが非行化防止につながるという観点に立って、親としてどのような生活態度を示すべきか、というのを次のような「すばらしい親八項目」として町内全世帯に配布していただきました。

- 一、言うべきときにぴしっと子どもに伝えるお父さん。
 - 二、しつけは女の仕事と奥さんに責任を負わせないお父さん。
 - 三、子どもの前でお父さんをほめるお母さん。
 - 四、おばあちゃんやおじいちゃんに子どもの養育をまかせないお母さん。
 - 五、ほかの兄弟(姉妹)と比較して「あんたはだめね」といわないお母さん。
 - 六、子供に仕事(家庭での役割)を与えてきちんとやらせる親。
 - 七、子ども前で学校や先生の悪口をいわない親。
 - 八、休日でも朝おそくまで寝ていることを許さない親。
- このように地域の方々の暖かい応援を受けての新山西育友会。今後一人ひとりを大切にしたい健全な地域の和を築いていきたいと願っております。

第一回町内子どもクラブ 相撲大会開かる



子どもクラブ紹介(二)

浦田下部長 紙 永 裕 臣

ぼくたち浦田下は、男子二十三名、女子二十二名、合計四十五名の子どもクラブです。活動としては、毎月第一日曜日に白水川のそうじをして、しています。このごろは、津、浦田下の四町内で手分けして、しています。このごろは、白水川がほんとうにきれいに「わたくしたちの町をきれいにしようという運動」が少しづつわかってもらえるようになったと感じます。男子・女子とも夏休みのソフボール、フットベースポ

まわし一枚の子どもの姿を見ると、生きいきとして清潔で健康美に満ちあふれ、神事としての相撲の歴史がわかるような気がします。相撲は強い瞬発力とそれをささえる高い調整力、関節の可動性が要求されます。それにもう一つ、勝とうとする旺盛な気力も必要です。ですから、練習は地味で球技のような活発さはありませんが、腰

ール大会はがんばりました。女子は、九月の親子フットベースボール大会に備えてみんながんばっています。サッカー部員が多いので子どもクラブ全員そろってやるときなど、いっしょにできないときが時々あるので残念に思います。浦田下が少しでもよくなるように、みんなで少しでも協力して楽しい子どもクラブになるようにがんばっていききたいと思えます。

の鍛錬を主にバランスと集中力を重視しています。「強靱な精神」と「強い足腰」を養うことは、現在の私たちの課題の一つです。当日は、三年生以上の子どもが参加しました。出場できた子どもはきつとよい思い出ができたにちがいありません。多くの観客の前での正式な競技の経験は一生のよい思い出です。今後、選手の一挙一動を自分におきかえ、より深く観戦できるのも、経験した者だけの特権であるともいえません。ですから、相撲を経験したことは体力のことだけでなく、今からの生活を豊かにすることにつながります。

大会後、「相撲をとらせてとの声をよく聞くようになりました。今回の相撲大会が子どもに相撲をとる機会を与え、相撲のよさを気づかせたのです。条件を整えれば子どもは伸びます。子どもの成長を祈る一人として、このすばらしい企画をされ、また、協力下さった方がたに深く感謝いたしております。

（体育部）



交通部の事業「自転車の一点検」は、中村憲二君の交通事故死を悲しい教訓にと、例年より早くということ、当初七月十三日を予定いたしました。ところが、それまでのカラ

梅雨は、一転して集中豪雨となり、七月二十三日長崎地方に大災害をもたらしました。この救援活動に参加された前山会長は、八月二日急逝されるという悲しい結末を迎えたのであります。自転車点検は七月十九日と八月九日の二回にわたって実施いたしました。七月十九日は曇り空で早朝の決定が遅れたこと、八月九日は夏休み中の登校日であったことなどのため、予定台数の約六十パーセントしか点検できませんでした。

自転車点検を徹底させよう

交通部長 小 島 健 一

残りの自転車は近所の自転車店で点検を受け、学校でスクール側及び町内代議員の皆様

を通じお願いいたしておりますが、まだ一部未点検の車もあるようですので、更に徹底をお願いいたします。シールを貼った自転車に乗ることと同時に、一・二年生は乗せないこととなっておりますので、気付かれた方は、よその子でも注意し合って欲しいと思います。

また、通学路の危険箇所等については、市長を囲む懇談会で要望意見を出していただき、改善を約束されたところもありますが、該当町内会・地主様方との話し合いが必要などところもあり、今後の課題として改善努力をして行きたいと思えます。

三年生以上の自転車については、乗せないのではなく、安全な乗り方を指導するとうり考え方で十月中旬と下旬頃に、三小校内の「自転車安全運転コンテスト」を計画したいと思っています。具体案が決まりましたら連絡いたしますので、多数の参加方ご協力をお願い申し上げます。



教師の目 No.1

子どもの「問題行動」について思う

生活部 板倉 英夫

少年非行の増大が深刻な社会問題となっている中で、その非行への温床は、むしろ小学校の時期にあることが指摘されている。

本校に於ける問題行動（非行）の事例は、年々減少し、今年も、現時点で三件、万引きが主である。しかし、発覚しない問題行動が相当多いのではないかと考えられる。

過去に於いては、万引き・車上荒し・金品持ち出し・ゲーム等での金銭乱費・盗み（お金）……等々の事例があったが、発覚のきっかけは、他の子どもから、或は地区の指導者の方から……というケースが殆んどで、親や担任が事前に気付かないことが多い。

しかし、ともかくも発覚した事例については、指導の手立てが組めるし、親の理解を得て、家庭——学校（担任）の連携のもとで事後は良い子になっていくというケースが多い。親の積極的な協力が得られず難かしいケースの場合でも、町内の指導者の方の熱心な指導によって、見事に良

い子になったという事例もあるが、誠に頭の下がる思いである。このように発覚した子どもは、ある意味では幸せであつたとと言えるのである。問題を起こした我が子を目の前にして、「早く発覚してよかつた」とおっしゃる親……その姿を見た時、我々は、この子はきっと以後良くなるだろうと安堵するものである。と同時に多く存在するであろう発覚しない、親もまわりの者も見過している子どものことを考える。不安と心配で心が痛むのである。……やがて、中学

高校……もうその時では指導も困難で、手のつけようもない等と耳にすることも多い。非行の要因が幾多と指摘される中で、私は、現代っ子の「自制心の欠如」（己の欲求を適度に制限・抑制する自制心・克己の欠如）を強調したい。最近の子どもたちは、「がまんぶよさ」が身につくようにな育てられ方をしていない面が多いのではなからうか。

欲しがる物を買ひ与え、子どもの機嫌をとって強させる。

子どもの機嫌をとってしつけをする、仕事（手伝い）をさせる……云々。おこずかいの与え方にしてもしかり、テレビのチャンネル権にしてもしかり……はたして、子どもに、充実した「心の満足」を与えているのだからうか。

非行に走つた子どもたちが補導された後、「もつと厳しくしてほしかつた」「もつと自分のことを解つてほしかつた」と涙ながらにつぶやくことが多いと聞く。こうしていても、本当の自分を理解してもらいたくて「心の悲鳴」を訴えている子どもが数多くいるのではなからうか。

子どもと親、子どもと教師その心と心の結びつき・信頼感をより深いものにするため真の子ども理解に努めるべきであろう。そして、子どもによく理解させ納得のいく説明ができ、厳しいしつけのできる……厳しい教育のできる……親であり、教師でありたいものである。



町内訪問を半ば終えて

教養部 本多 茂

例年よりややおそくスタートした町内訪問は、もはや五年の年輪をきざみ、しっかりと地につけてきたようです。ある町内では、代議員さんのユーモアあふれる司会で出席者全員の発言のなかで、ある父親は、①子どもとキャッチボールを毎日する ②風呂に親子で必ず入る ③返事をはっきりさせる ④後始末をきちんとなさせる。親子の触れあい、躰の問題など、ややもすると母親まかせの一面が感じられる昨今、父親の出番こそと、多忙の中に、しかも厳しく、父親の権威と愛情を持って、毅然たる態度で努力されている姿が印象的でした。

今までの、二一六人の出席者の心のこもつた語りかけは、子どもの健やかな成長を願う親の共感として、伝わってくるものがあります。対話・情報交換がお互いの良さを見つけあい、理解しあうなかに、信頼の糸で固く結びあつていく町内の輪は、たゞてまえよりみんなに通用する本音の出し合いへ、さらには、共感の人間関係づくりが、ま

ず、地域のなかで強力に発揮されつつあるということですから、来年度入学の保護者の同席がなされた町内にも頭がさがります。子どもに「よい環境」「よい教育」「よい文化を」そして、親自身が成長することをお願い、PTA誕生の契機をつくつた米国のバーニー夫人の言葉を思い出しながら秋の夜長のひとときを過ごさ町内訪問は後半へとダッシュしております。（九月十七日記）

編集後記



この号は、故前山前会長の追悼号として、例年より一ヶ月早く発行致しました。六十七号では、新山の故村君の交通事故死と、続けて悲しい記事ばかりになってしまいました。次号は、明るい記事が登載出来るよう望んでやみません。六十九号は、冬休み前に発行する予定しております。皆様の御協力と御声援を、心からお願ひ致します。